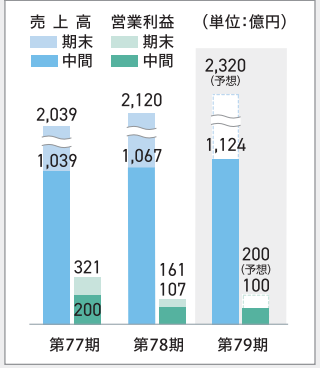
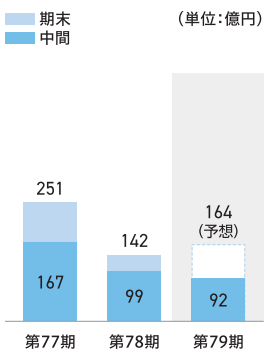
連結財務ハイライト

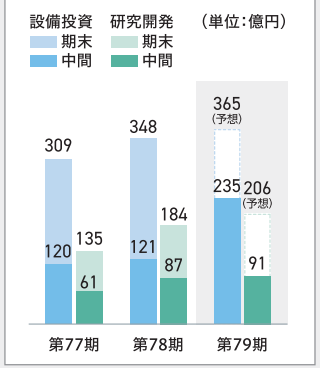
売上高／営業利益



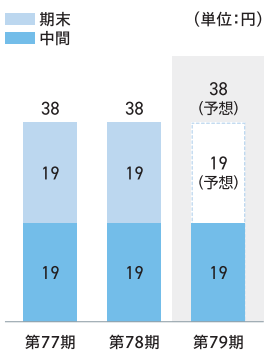
親会社株主に帰属する当期純利益



設備投資額／研究開発費

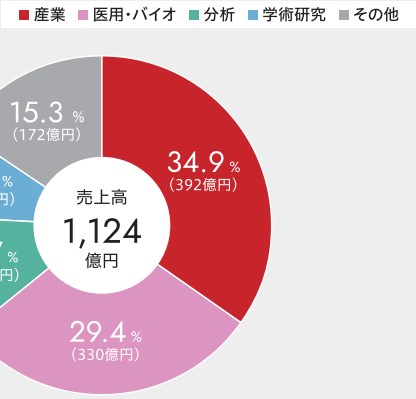


配当金*1



*1 2024年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しています。
第77期についても当該株式分割が行われたと仮定して1株当たりの配当額を算定しています。

業界別売上高



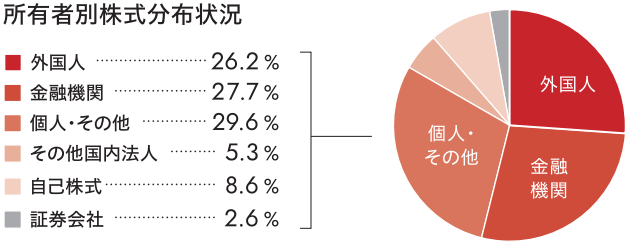
生成AI向けの半導体需要の拡大により、半導体製造・検査装置向けのイメージセンサ、光電子増倍管および光源の売り上げが増加したほか、基板検査向けマイクロフォーカスX線源の売り上げも拡大

株式事項

2026年3月31日現在

発行済株式総数	319,257,365株
株主数	123,152名

所有者別株式分布状況

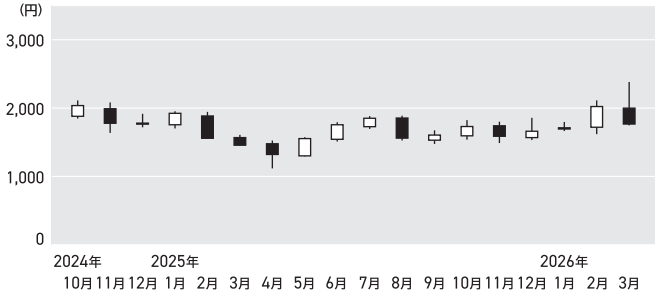


大株主

株主名	持株数（株）
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	45,888,800
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	19,206,400
浜松ホトニクス従業員持株会	8,908,542

※ 上記のほか、自己株式27,555,558株があります。

株価の推移



当報告書の関連情報は各リンクからご参照ください。		会社情報	
浜松ホトニクスについて		株主・投資家情報のよくある質問	
統合報告書		サステナビリティ	

HAMAMATSU
PHOTON IS OUR BUSINESS

第79期
中間報告書

2025年10月1日～2026年3月31日

浜松ホトニクス株式会社
証券コード：6965

TOP MESSAGE

トップメッセージ

代表取締役社長 ｜ 丸野 正

株主の皆さまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

ここ数年、当社グループを取り巻く事業環境は、主に医用・バイオ市場におけるお客さまの当社製品の過剰在庫の影響から需要が停滞するなど、慎重な局面が続いてきました。一方、この間にレーザ事業を当社グループの事業の第4の柱とするべく買収企業の統合を進めるとともに、光半導体事業における新工場の建設や生産ラインの構築など将来の成長に向けた準備を着実に進めてきました。

そして、当期に入り生成AIを中心とした投資が世界的に加速し、デジタル社会を支える基盤技術の需要が急速に増しています。こうした動きは、半導体デバイスやそれらを搭載する機器の高性能化・高品質化を一段と進展させており、製造・検査工程に求められる技術水準はこれまで以上に高まっています。

このような環境変化を背景に、当社グループにおいても売上回復の兆しが明確になりつつあります。特に、生成AI関連の投資を起点として、半導体製造・検査を支える光センサや半導体故障解析装置、データセンターで使用されるサーバー部品の非破壊検査向けマイクロフォーカスX線源などの当社グループ製品の需要が拡大しており、足元の業績を牽引しています。これらの製品は、高い精度や信頼性が求められる先端分野において不可欠であり、今後も当社グループの成長を支える中核的なドライバーになると考えています。
また、医用・バイオ市場についても、徐々に需要に回復傾向が見られています。引き続き、当社グループの重要な事業基盤である医用・バイオ市場に対して、高性能で信頼性の高い製品を提供することで、着実な成長を目指していきます。

光を活用した技術の進展や、それに伴う関連産業の拡大は、当社グループにとって新たなビジネス機会の創出につながります。市場やお客さまが抱える課題と真摯に向き合い、求められる技術や製品を磨き続け、最適なソリューションとして提供していくことが、当社グループの持続的な成長につながると考えています。

真に価値あるモノ・コトは何かを見極めながら、短期的な環境変化に過度に左右されることなく、中長期的な視点で事業基盤と技術力を強化し、確かな競争優位を築いていくことが、経営としての重要な責務です。今後もさらなる成長ステージを見据え、技術力を軸とした事業展開を推進することで、企業価値の持続的な向上を目指していきます。
株主の皆さまにおかれましては、引き続き当社グループの取り組みをご理解いただき、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

TOPICS

■ ウェーハ全面膜厚をわずか5秒で計測できる膜厚計を開発

当社は、高感度カメラを用いた独自の波長検出技術「λ-Capture®（ラムダキャプチャー）*1」を搭載し、最大300 mmウェーハの全面膜厚をわずか5秒で一括計測することが可能な新製品「Hyper-Gauge® 面内膜厚計」を開発しました。
本製品の半導体製造工程への導入により、プロセス時間の短縮による生産性向上や、面内膜厚分布の把握による歩留まり向上が期待できます。

*1 λ-Capture:分光器を用いず波長を測定できる独自の波長検出技術で、波長を2次元で計測できるため、高速にウェーハ全面の分光計測をすることができる。

製品ページ

https://www.hamamatsu.com/jp/ja/product/manufacturing-support-systems/thickness-measurement-system/C17319-11.html

■ 漫画でわかりやすくサステナビリティやマテリアリティを周知

当社では、サステナビリティの考え方や取り組むべき重要課題と目標（マテリアリティ）について、役職員一人ひとりの理解を深め、日々の業務に結び付けてもらうことを目的に、自社で企画・制作した漫画を活用した周知を行っています。専門的になりがちな内容を、直感的に理解しやすく、関心を持ちやすくするためにストーリー性のある漫画で表現することで、役職員が自分ごととして捉え、行動につなげるきっかけを創出しています。